

室員紹介 ～第七回 佐藤課長補佐～

総合政策局 参事官(総合交通体系)付
課長補佐 佐藤 幸基(さとう こうき)

○生まれ： 埼玉県 秩父市

○休日の過ごし方： 散歩、録画番組の始末(海外番組 スポーツ番組、食材紀行)

○すきな食べ物： 最後の晩餐と言われたら、寿司
(蒸し海老、干瓢巻き)



昨年、海外紀行時の写真

本年の9月1日より主戦場にライン参加しました佐藤です。ずーと関東地方整備局の道路畑が主戦場でした。現職担当しているものは、高齢者や障がい者をはじめ、誰もが積極的に活動できるバリアフリー環境をソフト施策の面から実現し、災害時における円滑な避難誘導等にも活用できるICT(Information and Communication Technology: 情報通信技術)を活用した歩行者移動支援の調査・検討です。段差、幅員などのバリア情報の提供や経路案内をスマートフォンで行うものです。交通情報、災害情報、観光情報のほか、グルメ情報など知りたい様々な情報など組合せは多様です。(ICTについては、バックナンバーも併せてご覧いただければ、幸甚です。)

はや、3ヶ月経過して痛感していることは、柔らかい頭と総合的なスキルが必要な職場です。冒頭の休日の過ごし方の録画番組の情報は、いずれ役立つと勝手に思い込んでいます。以下は、興味あれば、お進みください。

○旅番組+見聞録 編

飛行機、船、車だけでなく歩く、自転車に至る各々個別でなく連携することが重要ですが、地形など特殊事情もよりますが拘ることで発展しているところもあります。

イタリアのヴェネツィアに行ったとき、本島の交通手段は、ゴンドラ、水上タクシー(写真)、水上バスと徒歩が移動手段となっております。ゴンドラを漕ぐ人をコンドリエーレというそうですが、漕ぐことも、それ相応の技術と鍛錬がいるとのこと。多くの橋のため自転車も見かけませんでした。(ミスマッチで、自転車シェアの先駆、パリのベリブと呼ばれる自転車利用共同サービス(写真))。

観光者の経路は、陸路もありますがマルコポーロ国際空港から船着き場まで、屋根付きの経路を徒歩で移動し



水上タクシー、イタリアーノ



パリ市内のベリブ

水上タクシーやヴァポレットという水上バスで湾内の運行ルールに従ってドアツウドアでアクセスしてます。柔らかい頭にするためにも、一度は訪れておきたい場所です。ちなみに本島は木の杭で支えられているとのこと。

○食材編

食材の番組から、日本なら松茸がり(昭和初期には、近傍の山々にたくさん生えていて国民がこぞって収穫したとのこと。)ですが、イタリアの北部のピエモンテ州では、秋に白トリュフ(茸の一種、森のダイヤモンド、トリュフはフランス産も有名)を古老の紳士ハンターが自分の愛犬を引き連れ森に入り、犬の嗅覚たより、犬の口には、傷めないため猿轡(?)をさせ地中 40 センチ下を掘り当て収穫するそうです。埋め戻し痕跡を残さないよう情報管理しているとのこと。

また、ローマの休日(オードリーヘップバーンのデビュー作)という映画でアン王女がスペイン階段でジェラート(イタリアのアイスクリーム)を食べる一コマがあります。その種類は何かという細かすぎるネタですが、白黒画像のため特定できないとのこと。



ジェラート



ピッコロ(小さい)のジェラート